「頼りになる埼教組をみんなで創る」

第90回 定期大会 開催

6/6 オンラインにて

埼玉教育新聞

第2208号
編集兼発行人
埼玉県教職員組合
情報宣伝部
さいたま市浦和区高砂
3−12−24教育会館内
電話048（824）2511
（一部　10円）
週刊毎週水曜日発行
（組合員の購読料は組合費に含む）

埼教組メールアドレス
saikyouso@
kyouiku-net.org
埼教組ホームページ
↓こちらから↓

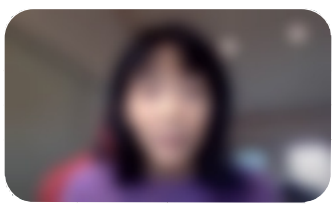
知恵集め工夫して 練り上げた２０２１方針

多彩な各地の支部・単組活動と職種・領域の専門部活動の発言により、埼教組方針が豊かに練り上げられました。展望の見えにくいコロナ禍で、埼教組は教職員の希望の光であることを再認識する大会となりました。発言の一部を紹介します。

頼りになる埼教組

養護教員部・Kさん

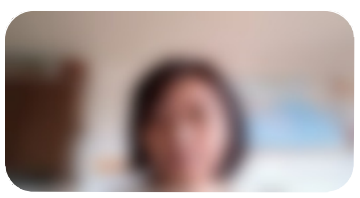
コロナ禍で子どもも教職員もストレスを高めた。研修もなくなり、一人職の困っている養護教員が孤立する事例がいくつもあった。その中で組合があったから救われた事例もあった。妊娠養護教諭の繁忙期補助の特別加配の人がそのまま産休代員になり、職場にも当事者にも大変喜ばれた。文字通り「頼りになる埼教組」と思われた。確信を持って仲間を広げたい。



理不尽な働き方改革反対

さいたま市・Kさん

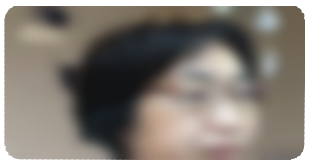
さいたま市教委の令和2年3月につくった「働き方改革推進プラン」には、「1年単位の変形労働時間制」導入と明記されている。市教組は反対署名にとりくみ、現時点でこれまで最高の１５５５筆を集約している。学校では時短ハラスメントやタイムカードの虚偽打刻が起きている。その原因は、人事評価シートに働き方改革の項目があり、超勤はあたかも自己責任のように改善申告させて、その結果、虚偽打刻が起こり時短ハラスメント（ジタハラ）が起きている。政令市になって権利が後退した。病気休暇を２日連続すると診断書を提出しなければならない。現在、無料の診療明細書をもって診断書にかえるように要求し、実現させたい。



コロナ禍の水泳指導

所沢市・Sさん

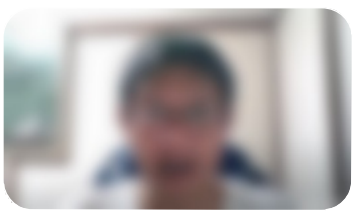
市教組大会で声が上がり、まん延防止重点措置が取られているときに、学校で水泳指導をしていいのだろうか、さらに感染拡大させてしまうとの不安から市教委に要望書を提出した。声をあげ、マスクなしで密集になりやすく、飛沫感染ばかりでなく口腔内の唾液による感染も考えられるプール指導を、この時期にしていいものかどうか疑われる。



さらなる組織拡大へ

上尾市・Iさん

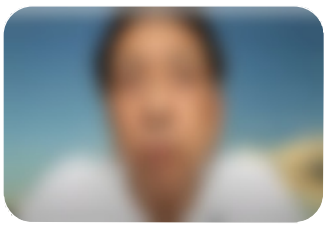
昨年度はコロナの影響でさまざまな制約を受けた。学習会ができなくなり、事務所交渉も回数を減らした。今年はコロナ禍でも組合活動を止めない。コロナ禍だからこそ、オンラインによる北支部会議や単組全員集会を実行している。グループラインをつくり情報交換もしている。「３カ年計画」を基にして、目標をたてて対話を行い、新規加入者を４人迎えた。実践学習会や採用試験学習会に誘って、さらに仲間を迎えたい。



障害児教育の環境整備を

障害児教育部・Nさん

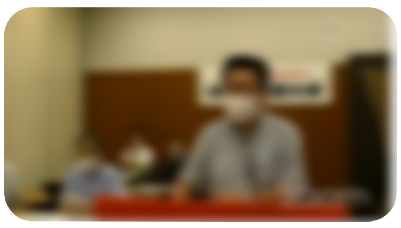
埼玉県の通級指導教室を、昨年度より１３人から１教室にした。そのため、１３人に満たない地域では通級教室がなくなり、１教室あたり２０人を超える多人数の状況になっている。ニーズの高い通級教室に児童生徒が急激に増えたために、子ども一人あたりの教室に通う時間数が減り、その影響は通常学級にも及んでいる。以前のように１３人までを一教室にし、障害児学級においても定員を８人から６人にする教育条件整備を、通常学級の少人数学級を求める運動とともに展開したい。



教員を続けるための共済

越谷市・Yさん

全教共済を転任してきた若い人を対象に勧めている。今年度も７人に勧め、今日４人の加入用紙をもって来た。「私たちの自主的で加入者の助け合いの総合共済、６００円は積立と同じで退職時に戻ってくる。教職員賠償責任共済は教員をやり続けるためのリスクを減らして安心を買うもの」と話しながら。だけど１回のお誘いでは入らない。「さらっと繰り返し」声をかけている。学校の机とカバンの中には常に共済パンフレットと口座引去り依頼書を入れておくことが肝心だ。



けやき

▼ミジンコにはまっています。六年の理科の教材でメダカを扱うのですが、生餌を食べさせたい、子どもたちに食物連鎖を教えたいなどの気持ちから、ミジンコを育てることにしました。ミジンコの種類は大ミジンコで、育てやすい種類です。ホームセンターに行き、５００円で購入しました。さて、ミジンコの飼育が始まりました。安全策として「ミジンコ畑」なる飼育セットを購入し、着実に増やしています。他にも、昆虫マット、グリーンウォーターで飼育しています。ミジンコも動物ですので、さらに小さい生き物を捕食しています。日々研究です。飼育ケースには、針子（メダカの稚魚）とミジンコ、ミナミヌマエビが仲良く暮らしています。▼ＩＣＴが盛んな現代、本物を見る教育が少なくなったように思います。私の教室（少人数教室）には、理科好きの子どもたちが毎日観察に訪れます。しばらくミジンコから抜け出せそうにありません。（た）

専門部大会も続々と開催

女性部

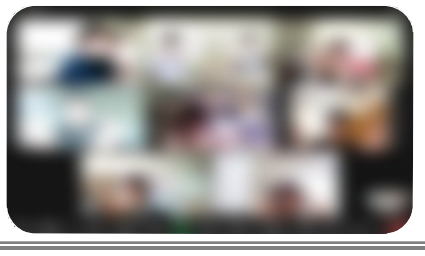
コロナ禍でも集まり・語り・交流することを大事にして、北足立北部教育会館をお借りして、会場参加とオンライン参加によるハイブリッド型の大会を実施しました。冒頭に全教女性部作成の「ハラスメントSTOP」を足立部長の解説で学習しました。続いて、大会討論では活発な意見が相次ぎ、「フラワーアレンジメント・絵手紙づくりなどを通じて交流することの大切さを実感した」「管理職によるハラスメントや休暇の取れない権利侵害に対して泣き寝入りせず改善できた。声をあげることの大切さを学んだ」「研修も十分でない中でタブレット使用が始まり家庭に持ち帰らせ宿題も課すようになった」など、情報を交換するとともに女性部の持っている力を再確認する大会となりました。

青年部

5月23日（日）、オンライン併用で第71回目の青年部定期大会を開催しました。今年度はこの1年以内に加入された方が中心に11名の参加がありました。

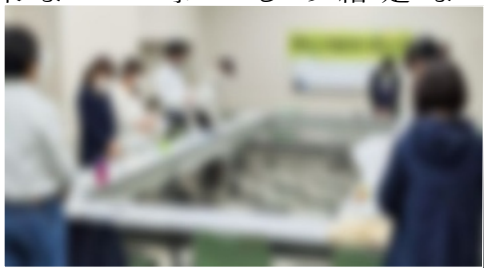
今年度は役員体制もパワーアップ！「自分も組合に支えてもらった。今度はみんなのために。」という素敵な声も討論の中でありました。労働組合を知らない人、労働組合に加入しない人が増えれば増えるほど、私たちの労働条件、教育条件は改善するどころか悪くなっていく一方。黙っていては何も変わりません。沈黙は容認。「今の状況で満足だよ！」と言っているようなもの。そうではないはず。#教師のバトンに寄せられる教職員の声がそれを物語っています。

この大会を機に交流を深め、組合学習、教育実践を深めていくことも確認しました。同世代のつながりを今後も深めていきます。



事務職員部

大規模校でない限り一人職である事務職員の働き方には様々な矛盾があります。学校で働く事務職員・栄養職員には「36協定（サブロク協定）」を時間外労働に歯止めをかけるものとして結ばなければなりません。「36協定」は、校長と職場で結ぶものと県教委は説明しているにも関わらず、個人的な協定になってしまったり、そもそも結ばれていないという自治体もありました。客観的基準が崩されかかっている昇任・昇格の問題、下見と行事本番との旅費の違い、未だに原本証明を必要とするハンコの問題、新規採用事務職員にとって4月当初の繁忙極まりない実態等々は、事務職員部が改善しなければならない課題であることを確認しました。「組合に入った方が得なんだ」と一人職で苦労している未組合員を迎え入れたいと決意を固め合いました。



いま教育に真に求められているものとは

GIGAスクール構想

一つ目はタブレットをいかに利活用するかが目的化している「GIGAスクール構想」です。市町村ごとでその利活用の状況や端末を持ち帰るか否か、そのためのルール作りがなされているかどうか…ここへきてその状況に差がで始めています。埼教組では各市町村の状況を把握するため、GIGAスクール構想にかかわる緊急アンケートを実施します。QRコードを読み取り、あなたの市町村、学校の様子を教えてください。現場の状況を県教委に伝えることも組合だからできることです。

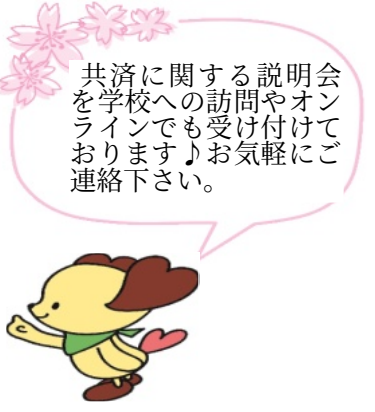
「教育とは何か」、「この授業で何をこそ教えたいのか」その答えを教員は常に探りながら目の前の子どもたちの実態や発達段階に応じた実践を日々積み重ねています。ところが今その本来あるべき教員の姿が国の施策やコロナによって歪められています。

教員免許更新制

二つ目に今、全教組織が一丸となってとりくんでいる、教員免許制度の廃止を求める一筆署名です。百害あって一利なしのこの制度は、様々な問題点を抱えています。とりわけ埼玉県では全県この免許更新制度について、全教が「すぐさま廃止すべき」という立場に立っていることは勿論のこと、全国市長会や政令市教育長会といった様々な団体が見直しを求めています。自身の立場から見える免許更新制度の問題点をこの一筆署名に綴るとともに、職場でこのとりくみを広げましょう。

水泳指導

三つ目にこの間の水泳指導にかかわる問題です。コロナ禍での水泳指導にかかわる不安と疑問の声が各地から寄せられています。新型コロナ感染拡大以前の状態に戻そうという動きが強まりつつある中、無理に水泳指導を実施する必要性はあるのでしょうか。東京都では水泳指導を机上学習に置き換えた区もあるようです。今年度、無理に水泳指導を実施せず、次年度で実施するなどの柔軟な対応を行うことも検討できるはずです。教育課程編成権は学校にあることを改めて認識し、学校職員間の合意形成によって判断がなされることが大切です。



全教共済の契約更新の時期です。6月末締め切りです。契約更新でしか生命、医療、傷害各共済の口数変更ができません。掛けすぎを見直したり、保障を厚くしたり、ライフステージに見合った見直しができます。

新規募集も行っています。全教共済は1年更新で掛金は掛け捨てですが、自主共済ならではの、掛金に占める給付に必要な経費率（純掛金）が高く、宣伝等にかける付加掛金を低く抑え、掛金は手ごろです。

人数にこだわらず、職場以外でも共済説明に伺います。お気軽にご連絡ください。

今年度、組合加入総合共済同時加入キャンペーンとして、加入から1年分の掛金を組合が補助しています。ぜひ、キャンペーンも広めて組合にお誘いください。